



脚本_風車



[http://unohirotest.mydns
.jp/hiroshi/cgi/top.pl](http://unohirotest.mydns.jp/hiroshi/cgi/top.pl)

karasuno10

人物

かすがけんた
春日拳太 (14) 城東中学校・二年生

かすがいつべい
春日一平 (40) その父親、運送会社社員

くまがいてつお
熊谷哲夫 (40) 城東中学校・技術教師

いとうおさむ
伊藤治 (50) ラーメン屋台・店主

生徒達

①春日家・前

“春日”の表札

②同・居間

パジャマ姿の春日一平（40）と春日拳太（14）が向き合っている。一平はズボンに上着を入れている。拳太はパジャマの上着を出している。一平の手には風車。

一平、風車で拳太を指す。

一平「今日から不良更正月間だ」

一平、拳太の回りを歩きながら、拳太をジロジロと見つめる。

一平「おい、お前……そのパジャマ」

拳太、パジャマの上着を出している。

拳太「何？」

一平「ちゃんと上着を入れないか」

一平、拳太のズボンに、拳太の上着を押し込む。

拳太、一歩退き、上着を出す。

拳太「やめろよ！ 良いんだよ、これで！」

一平「馬鹿か、お前は！ 風邪をひいたらどうするんだ！」

一平、拳太の上着を、ズボンに押し込もうとする。

拳太「良いんだよ。ダサイよ、そんなの」

拳太、一平の手の風車を払いのける。

拳太、風車を踏み潰す。

一平、風車を拾い、拳太に詰め寄る。

一平「拳太、お前、これがどういう物かわかってやってるのか？ お母さんも悲しむぞ！」

机の上に写真、風車を持った女に抱えられた春日拳太（1）。

拳太、後ずさり二階にあがる。

一平「風邪引いても知らんぞ」

一平、机のティッシュペーパーの箱からティッシュを取り出して、鼻をかむ。

③ 城東中学校・校門

“ 城東中学校 “ の門札。

④ 同・工作室・前

“ 工作室 ” のプレート。

⑤ 同・工作室

木造の部屋。工作機械で拳太と生徒達がキーホルダを作っている。

髭面の熊谷哲夫（40）の背後の黒板の文字 “ キーホルダ作りく 鑄造の仕方く ” 。

熊谷 「わからない事は、質問してくれ」

熊谷、拳太の前にやってくる。

熊谷 「おい、春日。上手いじゃないか」

熊谷、拳太のキーホルダーを手に持つ。

拳太 「誰でもできるよ」

熊谷 「謙遜する事ないぞ。丁寧に作っている」

拳太 「簡単なものにしたからな」

熊谷 「失敗しにくいデザインを考えたのはお前だ。たいしたものだ」

拳太、熊谷から受け取ったキーホルダー

を見つめ、目を瞬かせる。

⑥ 春日家・前（夕）

“春日”の表札。

⑦ 春日家・台所（夕）

一平、鍋でシチューをかき混ぜている。

卓の上には修理した風車。

ドアの開閉する音。

学ラン姿の拳太、廊下から歩いてくる。

一平「待ってるよ。今夜はシチューだ」

拳太、じつと一平の背中をみる。

拳太、卓の上を見る。

不器用に修理された風車

拳太、廊下に出て行く。

一平「……美味しい」

一平、小皿でシチューを味見して、振り返る。ドアの開閉音。

⑧ 城東中学校・校門（夜）

城東中学校の看板。

校門は閉められている。

拳太、塀を乗り越える。

⑨ 同・工作室（夜）

拳太、部屋の隅に座っている。

拳太、取り出したライターでタバコの火をつける。

拳太、煙を吐き出し、工作機械をみる。

拳太、机の端に煙草をおいて工作機械に近づく。

工作機械を動かす拳太の背中。

拳太の背後の机の端に置かれた煙草は赤く燃え、どんどん短くなる。

時計は20時をさしている。

拳太、風車形のキーホルダを手取る。

拳太、風車形のキーホルダの角度を変えて出来栄を確認する。

拳太、鼻をびくびく動かし、振り返る。

⑩春日家・台所（夜）

腕を組んだ一平、食卓の前で険しい表情。一平、指で小刻みに腕を叩いている。食卓には二人分のシチュー。廊下から電話の音が鳴り響く。
一平、廊下をみる。

⑪城東中学校・工作室（夜）

焼け焦げた工作室。
熊谷、工作室の外から扉を開く。
熊谷の横には、一平と拳太。
拳太、うなだれている。
一平、目を見開いている。

⑫同・応接室（夜）

一平と拳太、並んでソファークッションに座り、熊谷と向き合っている。
一平、頭を下げる。
一平「すみませんでした」
熊谷、髭を触る。

熊谷「今回は学校の労災保険がおりますので、
弁償をして頂く必要はありません」

一平「お前も謝れ」

一平、拳太をみる。

拳太「(口ごもり) ……さあせん」

一平「何だその謝り方は！」

一平、立ち上がる。

拳太、まずそうに一平から顔を逸らす。

熊谷「とにかく、今日はもうお帰り下さい。

この件に関しては、また後日連絡致します」

一平、勢いよく座り、鼻息を荒げる。

拳太、一平を見て不愉快そうに俯く。

⑬ 道路 (夜)

一平と拳太、並んで歩いている。

先を歩く一平。後を歩く拳太。

拳太、よそ見をしながら歩く。

一平「何で工作室にいたんだよ」

拳太、そっぽ見ている。

一平「どうして工作室にいたんだ？」

拳太、足元の小石を蹴る。

一平、首を揉みながら、振り返る。

拳太、立ち止まる。

拳太「別に良いだろ。そんな事」

一平「そんなわけあるかい!？」

一平と拳太、にらみ合う。

目に涙をためている拳太。

一平、踵を返す。

一平「何で泣いてんだ？」

拳太「泣いてねえし」

拳太、鼻をすする。

一平、辺りを見回す。

道の先にラーメン屋台がある。

⑭ ラーメン屋台（夜）

伊藤治いとうおさむ（50）が立っている。

一平、のれんをくぐる。

伊藤「まいど」

一平、拳太を手招きする。

一平「拳太、食うぞ」

拳太の声「いいよ、帰るから」

一平「座れ」

一平、拳太を座らせる。

拳太、屋台を見回す。

一平「ラーメン」

伊藤「兄ちゃんはどうする？」

拳太「兄ちゃん？」

拳太、伊藤を見る。

拳太「……いらないうって行ってんだろ」

拳太、そっぽを向く。

一平「こいつにもラーメン下さい」

伊藤「あいよ」

一平、笑顔を作る。

一平「こいつウチの息子なんですがね、何考えてるかわかんないんですよ」

卓上に二つのラーメン、湯気を放つ。

伊藤の声「へいお待ち」

一平、ラーメンを食べる。

拳太、ラーメンを見る。

拳太、溜息をついて、ラーメンを食べ

始める。

拳太、空のラーメン鉢をおく。

拳太、頬杖をつく。

拳太の声「おかわり」

一平、ラーメンを食べながら、目を見

開き拳太を見る

伊藤、ラーメンの入った鉢を置く。

一平と伊藤、ラーメンを勢いよく食べる拳太を啞然として見ている。

一平「何だよお前、腹へってたのか？」

伊藤、満足気に腕を組み、拳太を見る。

拳太、空のラーメン鉢を置く。

拳太、一平を睨みつける。

拳太「おかわり」

一平、溜息をつく。

一平「俺もおかわり」

伊藤「あいよ」

伊藤、笑顔でラーメンを作る。

拳太のベルトに下げられてい風車の形のキーホルダ。

著者HP：[鳥野の箱庭](#)

